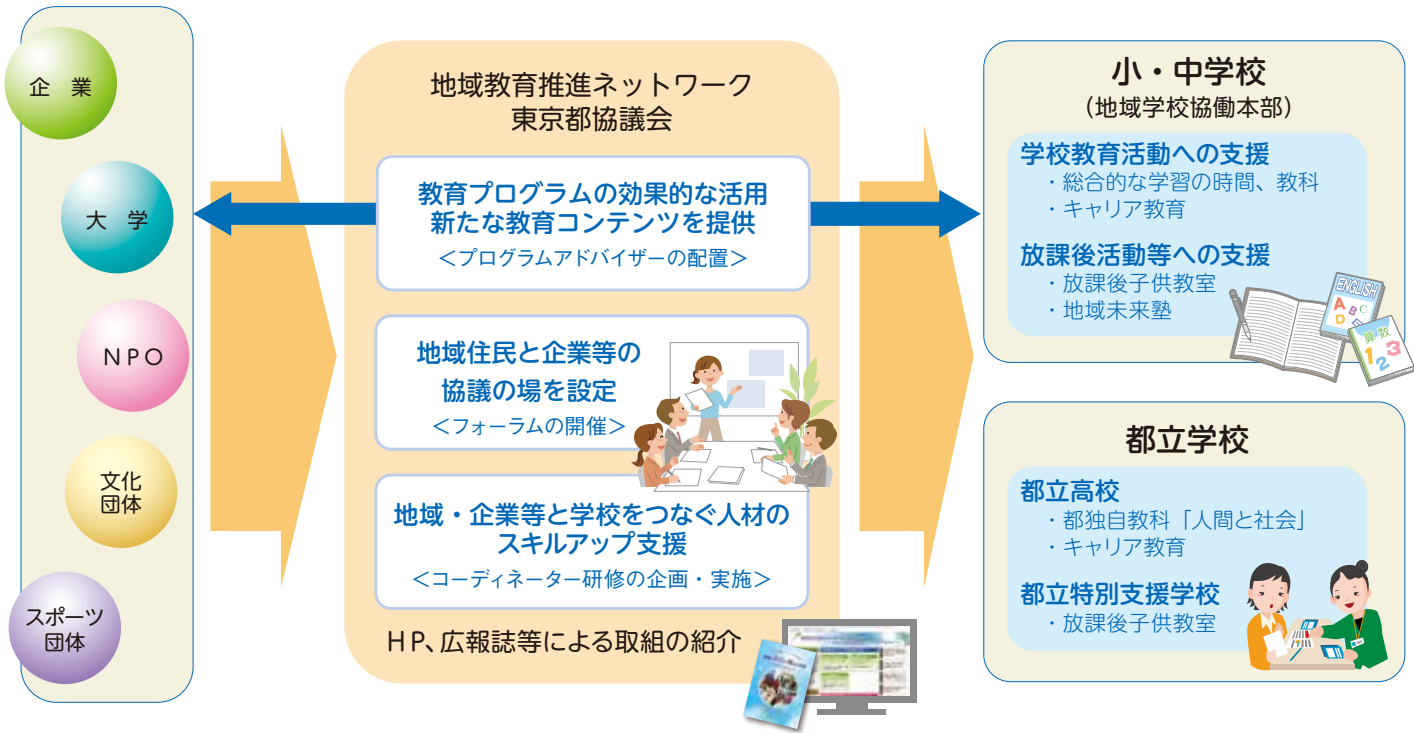


地域教育推進ネットワーク東京都協議会

ネットワーク協議会は、学校と、企業・大学・NPO等とのネットワークをつくり、子供たちの教育活動を豊かにすることを目的に、東京都教育委員会が平成17年8月に設立しました。



学校と地域(企業・NPO等を含む)との連携に関わる動き

- 平成18年12月 教育基本法改正
第13条「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」を新設
- 平成20年 6月 社会教育法改正
第3条「国及び地方公共団体の任務」第3項に、社会教育行政は学校、家庭、地域住民の連携、協力の促進に努めることを明記
- 平成29年 3月 社会教育法改正
第5条第2項「市町村の教育委員会の事務」として「地域学校協働活動※」が法律に位置付く。
小学校・中学校の学習指導要領等の改訂の告示
小学校は2020年度から、中学校は2021年度から全面实施

※地域学校協働活動とは 地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

取組をネットワーク協議会のホームページで紹介

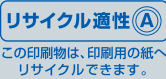
東京都生涯学習ホームページを活用し、学校と地域・企業等が連携・協働した取組やフォーラム等の報告、会員団体の教育プログラムを紹介しています。
また、ネットワーク協議会の取組の紹介や、会員団体の教育プログラムの情報を、会員団体向けと地域コーディネーター向けのメールマガジンで配信しています。

東京都 ネットワーク



連絡先

地域教育推進ネットワーク東京都協議会 事務局
東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課
電話 03-5320-6859 ファクシミリ 03-5388-1734
e-mail ml-c-net@section.metro.tokyo.jp
ホームページ <http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/schooling.html>



地域教育推進ネットワーク東京都協議会

学校に社会の風を入れよう

子供たちが多様な大人と出会い、社会性を育み、
学ぶ意欲を向上する機会を提供します



「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」は、企業・大学・NPO等の専門的な教育力を、
学校をはじめとした子供たちの教育活動につなげるための仕組みです。
小・中学校の授業で、企業等外部の教育プログラムを効果的に活用するための取組を重点として、
これからの社会・地域を担う子供たちの学びを支援していきます。



地域教育推進ネットワーク
東京都協議会

地域教育推進ネットワーク東京都協議会は、 学校と企業・NPO等とをつなぎ、 新学習指導要領のポイントである 「社会に開かれた教育課程」の実現を支援します。

新学習指導要領の実施に向けて、学校は、子供たちの実態や地域の状況、自校と社会とのつながりを把握しながら、学校全体で社会とつながる教育課程を編成していく必要があります。そのためには、地域や企業等、外部の人的・物的資源を効果的に活用することが大切です。

しかし、学校が企業等の教育プログラムの情報や、具体的な活用事例を把握することは難しい状況にあります。地域教育推進ネットワーク東京都協議会（以下「ネットワーク協議会」という。）では、プログラムアドバイザー※を配置し、学校の負担を軽減しながら外部資源の効果的な活用ができるような取組を実施しています。

※プログラムアドバイザーとは 企業等の教育プログラムの効果的な活用を推進するために、ネットワーク協議会に2つの分野の「プログラムアドバイザー」を配置し、学校の希望に応じて助言や授業の実施支援を行っています。

I 教科で企業等の専門分野を学ぶことを支援



- ・企業の専門分野に触れた参加型の授業（理科、社会等）が可能
- ・プログラムアドバイザーが教育現場のニーズに合った教育プログラムを作成
- ・プログラム作成後はプログラムアドバイザーが学校との連絡調整を担当

これまで、企業等の教育プログラムは、主として「総合的な学習の時間」で活用されてきました。今後、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教科でも学校と社会がつながる授業として、企業等の教育プログラムを活用していくことも効果的です。企業等と開発した、様々な教科で活用できる教育プログラムの中から、4つのプログラムを紹介します。

教科学習支援分野のプログラムアドバイザー
協力団体：NPO法人企業教育研究会
<https://ace-npo.org/>

企業等と連携した授業例の紹介

「みんなで学ぼう クルマの安全」

コマ数：45分×1、2コマ

対象：小学校1～6年生

内容：自動車メーカーの社員が、危険予知の映像と副読本を使いながら、クルマの機能と安全な乗り方を解説

関連する教科等：3、4年生：社会（安全を扱う単元）、5年生：社会（工業生産を扱う単元）、安全教室

教員の声

- ・シートベルトの正しい締め方は保護者も「知らなかった!」と驚いていました。衝突実験の映像も子供たちの印象に強く残りました。
- ・ドア1枚でも多くの部品でできているなど自動車会社ならではの解説は、社会科の工業生産の単元に入ったときに思い出させようと考えています。



「考え、議論する道徳・キャリア教育～その日、教室が『会社』になる～」

コマ数：50分×2コマ

対象：中学生

内容：映像教材を見ながら、未来の世界で観光業を営む会社の社員として、経営課題に対して真剣に考え議論する。

関連する教科等：道徳、社会科（公民分野）、総合的な学習の時間（キャリア教育）

教員の声

- ・「意思決定シミュレーションゲーム」と銘打ったこの授業。子供たちが、これから正解のない問題に遭遇したとき、何を優先し選択していくか、その判断の拠り所を教えてくれた授業だった。
- ・新学習指導要領に掲げる「どのように学ぶか。」を体現化している教科横断型授業として、様々な角度から取り組める教材になるのではないか。



「未来実現! IT教室～みんなでチャレンジ! ITエンジニア」

コマ数：45分×2コマ

対象：小学校5、6年生

内容：ITエンジニアになり、色に反応して動くセンサーロボットと地図を使いながら、街の配達システムを考え合う。

関連する教科等：産業や情報化を扱う単元、プログラミング教育

教員の声

- ・後期に学習する「社会を変える情報」の内容と合致しており、学習するすべてのことがキャリア教育含め今後に生かされる事がわかる内容でした。
- ・授業の日の下校時に「またITの勉強をやりたい!」という子供たちも多く、違う内容のプログラミング学習も是非やってみたいと思いました。



「キャラクターのジェスチャーを考えよう!」

コマ数：45分×1、2コマ

主たる対象：小学校5、6年生

内容：海外版のゲームを作るために、新しく登場するキャラクターの喜怒哀楽のジェスチャーを考え合う。

関連する教科等：外国語、外国語活動

教員の声

- ・仮想のBOSSからの英語の指示と、社員の説明で授業が進行するが、映像教材もあり、子供たちは英語に抵抗なく内容に入っていた。
- ・企業では様々な国の人が働いていること、そして英語が大事なことを社員の方から伝えていただいたことで、続く授業での工夫につながるプログラムだった。



II 学びと社会・将来について生徒が主体的に考えることを支援



- ・「働くこと」、社会の中で自らの役割を考える授業づくりが可能
- ・自社の企業説明等、企業負担の少ない形で教育支援活動を実現
- ・プログラムアドバイザーが複数のゲスト講師及び学校との連絡調整を担当

新学習指導要領では、その総則で「児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要となる基盤・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつづつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」と示されました。

社会人・企業人による授業と前後の授業のつながりや、学級活動・学校行事と関係付けた活用等を工夫しながら、キャリア教育の視点で外部の教育プログラムを活用することもできます。

ここでは、キャリア教育支援分野のプログラムアドバイザーが作成した「お手紙プロジェクト」を紹介します。

キャリア教育支援分野のプログラムアドバイザー

協力団体：一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会
<http://www.human-edu.jp/>

子供たちが自ら社会人に手紙を書く
プロジェクト型職業人講話

お手紙プロジェクト

対象：小学校5、6年生

内容：会いたい社会人に想いを伝える手紙を工夫して書く、相手の立場に立っておもてなしを考える等の主体的な活動に挑戦することを通して、働くこと・職業に触れ、教科の学びとつながるキャリア教育を実践

■進行例

	項目	コマ数	児童の活動
1	事前授業「会社とは」	1、2	会社の業務紹介と、様々な職種の社員の方から各々の仕事内容についての説明を聞く。
2	職業調べ	4	自分の「好き」からつながる職業、職種を調べる。
3	質問を考え手紙を書く	2～4	調べてもわからないこと、聞いてみたいことを考え、会いたい社会人に手紙を書き、送る。 (→社会人から、当日のゲスト講師が可能な返事が届く。)
4	当日の準備	4～	当日のおもてなしを考え、お迎え、接待、会場づくり等、チームで役割分担を決め、準備する。
5	授業当日 (ゲスト講師からのお話)	2	全体で20名程度のゲスト講師の中から、希望した講師を含む3名の講師から話を聞き、質問する。
6	振り返り	2	お礼の手紙を書く。チームで良かったこと、できなかったことについて振り返る。

企業の協力

企業の協力

児童の感想

違う職業の方から、「コミュニケーション力が大事」「仕事のやりがい相手喜んでもらえること」という話を聞いた。職業について興味がわいたので、誰かを幸せにできる仕事について考えていきたい。

教員の声

仕事調べではなく、働く人の気持ちを知り、働くとはどういうことかを子供たちが真剣に考える授業を実施したかったので、このプログラムを活用している。プログラムアドバイザーが教員のパートナーとして企業等との間をつなぎ、ワークシートや必要な様式等が準備されているので、安心して実施できた。

お手紙プロジェクト

